

きりたんぽラウンド(R 8.1.10) in akitaの報告

秋田県事務局

令和8年の幕開けとなる「きりたんぽラウンド」は、県内外を含め約30名の参加をいただきました。前日までの最強寒波が心配されましたが、当日は晴天に恵まれました。

冬休み終了間近の休日にもかかわらず参加された皆さんの熱意ある姿は、まさにラウンドの目的である「学校体育の充実に向けた熱い語り合い」でした。

秋田ラウンドテーマ

「見方・考え方」を働かせ、「わかる・できる・たのしい」を
実感させる体育・保健体育の授業づくり

1 実践発表「第40回秋田県学校研究大会本荘由利大会に向けた取組について」

○本荘由利教育研究会保健体育部会 由利本荘市立本荘北中学校 佐藤 征市郎 先生

秋田県では、学校体育に関する指導の充実等を目指し、2年に一度、県学校体育研究大会を開催しています。今年度は、令和8年度に大会を開催する教育研究会より、地区の課題を踏まえたこれまでの取組や、大会の研究主題について発表がありました。研究主題は「豊かなスポーツライフを継続する基礎を培い、健全な心と体を育む保健体育学習～運動の楽しさや喜びを実感し、仲間との関わりを通して高まる学び～」です。

発表後には、授業者が実践を通して抱えている「指導改善に対する疑問」をテーマに、グループディスカッションを行いました。活発な意見交換を通して、課題解決のヒントが共有され、当該地区における実践が今後さらに充実していくことが期待される内容となりました。

2 講義 「見方・考え方」の追求による「わかる・できる・たのしい」授業

○岩手大学 准教授 清水 将先生

授業改善を通じて、運動やスポーツが好きで体力が高い「秋田っ子」の育成に向けて、子どもたちに運動の魅力を実感させたい。そのような思いから、今回のテーマを設定しました。

清水先生からは、現行学習指導要領が掲げる「資質・能力」の育成に向け、体育・保健体育における「見方・考え方」を核とした授業デザインの在り方を説明していただきました。体育の存在意義を「他教科にはない独自の認識対象と方法」にあると定義し、単なる好きの習得を超えた「おもしろさ」や「構造の理解」を教えることの重要性を解説していただきました。指導と評価の一体化を図るとともに、目標と内容を構造化し、児童生徒が「わかる・できる・たのしい」を実感できる授業サイクルを確立する意義を学びました。なかでも、児童生徒が目標を達成した際の格別な喜びを創出すること、その探究プロセス自体が授業者自身の「おもしろさ」に繋がるという視点に、深い感銘を受けました。

3 講義・演習「体育・保健体育を学ぶ意義・価値について」

○桐蔭横浜大学 教授 佐藤 豊先生

○日本女子体育大学 教授 高橋 修一先生

次期学習指導要領改訂に向けたワーキンググループでの話題を踏まえ、ワークショップを行いました。

幸福な人生やよりよい社会の実現につなげる視点から、体育・保健体育を学ぶ本質的意義について考えを深めました。資質・能力の育成を通じ、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基盤を築く価値や領域毎の魅力や特性を整理し、小・中・高の発達段階に応じた「体育でしか味わえない価値」の系統化について話し合いました。

佐藤先生や高橋先生からは、「教科の本質とは何か」「社会が求めている人を育てるために体育は何かできるのか」の視点から、身体を通じた自己理解や他者共生の価値、ウェルビーイングの実現に向けた役割についてご示唆をいただきました。運動の特性を捉える「見方・考え方」を働かせ、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む重要性を、あらためて確認することができました。



3人の先生方の講義・演習において、一貫して『「見方・考え方」を働かせ、『わかる・できる・たのしい』を実感させる体育・保健体育の授業づくり』という核心に触れていただいたおかげで、一つ一つの言葉が深く腹落ちするものであり、充実した研修となりました。

講師の佐藤先生、高橋先生、清水先生、発表者の佐藤先生をはじめ、参加者の皆様のご協力により、今年度も有意義なラウンドができました。本当に、ありがとうございました。 【事務局】